

ネイティブの英語エッセイ(音声・全訳付)

ガイド: 金井 さやか



◆ 筆者プロフィール

Sarah Saito サラ齊藤さん

アメリカ・オレゴン州ポートランド在住。

日本での英語指導経験あり。その経験を生かして、夫の齊藤智秋さんとともに、英語コラムの執筆などで日本人学習者を助けている。

日本語は勉強して身に付け、夫婦間の会話は日本語、家族全体では英語と使い分けているバイリンガル。

3児の母としても、愛情たっぷりに活躍中！

● サラさんの経歴

1993 Brandeis University with a BA in English (Phi Beta Kappa)
(英語の文学士号を取得して、ブランダイス大学を優秀な成績で卒業。“Phi Beta Kappa(ファイ・ベータ・カッパ)”とは、アメリカで伝統のある、成績優秀者の会のこと。)

同年～ JET プログラム (Japan Exchange and Teaching Programme 「語学指導等を行う外国青年招致事業」) で来日。
静岡県内の高校で ALT (Assistant Language Teacher) として 2 年間勤務。

1995 3 年目は、掛川市にある静岡県総合教育センターに配属となり、教員研修、研修生への英語指導を担当。

1996～ F.I.A. (外国語指導を事業とする企業) で、主に海外相手のビジネスをする日本人に英語を指導。2000 年まで 4 年間。

日本滞在時は、上記と並行して、地域で活動するクラスにおいて、大人や子どもへのレッスンも随時担当。

その後齊藤智秋さんと結婚して帰国し、アメリカから情報発信を続けている。

私(さやか)とはメールマガジンの発行を通じて知り合い、現在は「トモネット英語塾」(会員制のオンライン英語塾)のサポート講師としての活動も一緒にしています。

また、将来は一緒に本を出したいね、と企画中です。

この英語エッセイでは、英文での執筆・音読をサラさんが担当し、訳の原案を斉藤智秋さん、全訳および効果的な使用法ガイド(この記事です)をさやかがつけています。

● From Sarah

While in Japan, I was a student as well as a teacher, learning as much as I could about the Japanese language and culture. Among other subjects, I took shodo and ikebana classes and studied aikido and Japanese cooking. I made many friends and enjoyed a rich variety of experiences which have led me to a deep appreciation of the Japanese culture and people. When I later married my Japanese husband, I cemented an enduring connection to Japan that will always be a part of my life.

As I have written these essays, in the back of my mind has always been the image of my students. As a teacher, I was constantly busy, and always looking for materials that would help me engage with my students in some way. I wanted material that was thought-provoking in some way, that could provide a place for discussion or questioning. My greatest hope is that my fellow teachers will look forward to presenting my essays to their students in their own classrooms and use it as a bridge --sometimes humorous, sometimes poignant, but never boring!--to the larger world outside the classroom.

(サラさんと3人の子どもたち。)



◆ 構成

Sarah's English Essay

Purple and Yellow Socks ◆ Part 2 (2/4)

There was an unusual thing about Roy. He always wore socks that didn't match. If he had a red sock on his left foot, then he had a blue sock on his right. If he had a purple or orange sock on his right foot, the sock on his left was pink, or yellow, or brown. His socks were always brightly colored, and they were always mismatched.

As we team-taught together at the center, or visited our schools, our students would notice that Roy's socks didn't match. We could hear them talking about it. Then a few of them would come up.

"Look!" they would say. "Your socks are different colors! One is purple and the other is yellow!"

They always looked very worried for him. They knew that having mismatched socks was a BIG mistake.

紫と黄色の靴下: パート2

ロイには変わったところがありました。左右が合わない靴下をいつも履いていたのです。左足に赤い靴下であれば、右足は青い靴下でした。もし右足に紫かオレンジの靴下をはいていれば、左足の靴下はピンクか黄色、または茶色でした。彼の靴下はいつも鮮やかな色で、いつも左右が合っていないのです。

私たちがセンターや訪問した学校で一緒に読んで教えたときには、生徒たちはロイの靴下が合っていないことに気付いたものでした。彼らがそのことを話しているのが聞こえます。そして何人かが近づいてくるのです。

「見て！」彼らは言いました。「先生の靴下は違う色ですよ！片方は紫で、もう片方は黄色です！」

生徒たちはいつも、ロイを非常に心配しているようでした。靴下を揃って組み合わせていることは、大きな間違いだと思っていたのです。

© Sarah Saito and Sayaka Kanai

エッセイのタイトルと合わせて、全体を4つに分けたうちの2番目の部分、などとわかるように表示しています。

パートごとの英語の本文に続けて、対応する訳をつけていきます。

日本語としての自然さを意識しながらも、原文と対応させやすい訳になるようバランスを取ってあります。

PDF形式のファイルに、英文と日本語訳が載せてあります。対応する音声ファイルもありますので、こちらもダウンロードしてお聞きください。

◆ 効果的な使い方

● 利用のポイント:

単語の意味や文の構造を分析し、逐一訳して理解する・・・という方法は学校の教科書ですすでに行っている内容ですので、このエッセイではまた違った方法で英語に親しむのがおすすめです。

- ・ 内容に興味を持って話の流れや要点を正しく読み取る。
- ・ トピックについての考えを深め、自分の意見を持つ練習をし、日本語や英語でのアウトプット活動につなげる。

上記の点を意識した利用が、真の英語運用力をつけるためにも効果的です。

● 対象、利用できる場面

- ・ 英語講師の自習用として
- ・ 英検 4～3 級以上の力を持つ学生が楽しめるリーディング素材として、個別の学習用に
- ・ 塾や学校で、中学生の進学クラスの読解に
- ・ 高校、大学、社会人クラスで、教室でのディスカッションや生徒の個別学習用に

音声を聞いたり、英文を読んだりして大意をつかむのは基本的な利用法ですが、トピックに関して英語で意見を言う練習などは、英検の面接対策をはじめ、高度な英語運用スキルを身につけるために最適な訓練だといえます。

ぜひ楽しんでご利用ください。

具体的な利用方法については、あとの項目をご参照ください。

● このエッセイの利点:

通常、英語学習用の素材として適している題材選びには、

- ・ 文字と音声がある
- ・ 興味が持てる内容である
- ・ 学習者にとってちょうどよいレベルである

といった点がチェックポイントとして挙げられます。



これらの点から見て、今回の英語エッセイはよい素材だといえます。

- ・ 文字と音声がある

執筆者は、高等教育を受け、日本人への指導経験もあるアメリカ人です。ネイティブスピーカーが書き下ろした英文のエッセイに、本人の朗読した音声ファイルが付属していますので、目から、耳からインプットでき、音読練習時にも助けになります。

- ・ 興味が持てる内容である

誰も、自分の生活や興味に関係のあるトピックで、好奇心を刺激される内容であるなら、「知りたい」という気持ちが原動力となり、結果として英語の学習効果は大きく上がるでしょう。(※)

(※これは、私が「SE 学習」と呼んでいる、効果の高い方法に通じます。書籍『国内で TOEIC テスト 990 点～留学なくても英語力は伸ばせる!』(中経出版)をご参照ください。)

日本に滞在して仕事をしていたアメリカ人としての視点や体験、日本人男性との結婚、出産や子育て、社会の出来事への関心や意見の表し方、といった切り口から、さまざまな内容が語られます。日本人の英語学習者にとって、何かしらの興味を持てる内容が見つかることでしょう。

- ・ 学習者にとってちょうどよいレベルである

英語や音読スピードについて、合ったものを選ぶのも大事なことです。

ざっと全体を見渡して、わからない単語が多すぎず、全体の意味が想像できるくらいのも

のがおすすめです。

ご紹介していくエッセイは、教科書のように語彙を制限することなく、自由に書かれたものですが、どれも日常の出来事をもとにして平易な文体で表現されています。

この英文エッセイを難しいと感じるかどうかは、もちろん学習者のその段階でのレベルによりますが、全訳と音声、文字とが互いに補い合う形で、幅広いレベルの学習者に対応しています。

中学生で英語の得意な生徒なら、ほぼ自力で理解できるレベルだといえます。

難易度は、扱い方によって調整できますので、以下をご参照のうえ、ご利用ください。

● 学習の進め方:

これは、リスニングと読解の両方を意識した方法で、たくさんある中の一例です。ここでご紹介する方法を参考に、学習者にとって気持ちよく進められる方法にアレンジしていただいてもかまいません。

教室での利用であれば、先生がある程度の導入を日本語(または英語)で行い、興味づけをしてから活動に入ると、内容を理解しやすくなります。

1) 音声を聞く

文字なしで、どれくらい内容をイメージできるか聞いてみます。

1回~数回繰り返して、だいたいつかめたと感じられるまで。

英文や単語すべてを聞き取るのではなく、「内容をつかむ、情報を取り出す」姿勢で。

2) 文字で内容を確認

聞き取れていなかったところはないか、
音としては聞けたけれど、意味がわからなかった単語はどれか
必要に応じて辞書も引きチェックします。

(ここで、あまりに知らない単語が多いと先へ進むのがいやになるので
事前のレベルチェック、題材選びは重要です。)

ここは、文章の内容を理解することを重視しつつ、覚えたい単語や使ってみたい表現などをチェックする段階です。

このとき、「英語の語順どおりに前から理解する」ことができていないと音声でも文章でもすんなり理解できません。普段から意識することが必要になります。

上記の段取りを逆にして、文字を黙って読み、情報を読み取ってから音声で再度確認する、という方法でもかまいません。

3) 音読

ここまでで内容は理解しているので、口を動かしながら英文の内容をイメージすることができるはずです。

ここまでで示したような準備をすれば

「内容が頭に入っていない」

「文字を目にしても発音が出てこない」

という問題にはぶつかりません。

従来の読解練習では、2)の段階までで次へ進むことが多かったために、「表現を自分のものとして使う」という力がつきにくかったのですが、音読を習慣にすることで、アウトプット(この場合は英語を聞く・話すこと)への抵抗がなくなっていくます。

音読回数については、厳密に定めなくて結構です。

自分(授業であれば生徒たち)が気持ちよく読めるように、スピードを徐々に上げたりイントネーションに気をつけたりしながら、単調にならないように工夫しつつ回数を重ねていくといいです。

・音声と一緒に音読して、発音やイントネーションを真似する

・慣れたら音声なしで、再現する

といった方法はとても効果があります。

ある程度内容や英語表現が自分の中にしみこんでくれば
そろそろ次の題材へ・・・と移ってもいいでしょう。

1週間程度時間を置いて、また戻って練習してみるのもよい方法です。

↓ そして、できることならばここまでやると、英語の発信力が格段にあがります。

4) 読後活動

内容を自分なりに要約して英語で言ったり、書いたりしてみる

小学校の国語で行ったような活動のイメージです。

誰が、どうして、どうなった、など。

その話を知らない人に教えてあげるつもりで、独り言でもいいから
英語で話してみると・・・

慣れないうちは、うまく言えないものです。

その「うまくいえない」感覚が次への燃料にもなりますし、
繰り返し挑戦することで、実際の運用力もついてきます。

読後活動としての切り口の例:

- ・まず思ったこと
- ・共感したこと
- ・新しく知ったこと
- ・自分の考え、視点からみて違うと思ったこと
- ・自分ならどう行動するか
- ・関連する話題について知っていること
- ・用意された英語の質問に、英語で答える など



日本語を使って考え、表現しても、「異文化理解」などについての考えは深まります。失敗を恐れずに、意見交換を楽しむ姿勢が重要です。(授業であれば、先生が進んでその雰囲気を作り出すこと)

小中学生に対しては、集団の授業で利用することは難しいと思われます。その場合は、先生が常にこのような英文に触れて知識を仕入れておき、ご自身の糧としておくと、ちょっとしたきっかけでその知識を披露するチャンスがきたりするでしょう。

(例: あるトピックについて、生徒たちに「先生が知っているあるアメリカ人女性の体験ではね・・・こういう考え方もあるのだね」などに対応ができる)

日本人でもその他の国の人でも、自分の意見を持ちながら、違う考え方をしている人がいることを理解して共生する、そのようなことを体現している先生に対しては、生徒たちも信頼と尊敬を寄せるのではないのでしょうか。

何より、先生自身が学ぶ姿勢を持ち続けていると、生徒たちに必ず伝わるものです。

ネイティブの英文エッセイと、このガイドを参考に、先生方が楽しく実りある英語体験を広げていかれますように！